

本学部における「学生による臨地実習評価」の 方法の開発経過

宮谷 恵 安田 真美 米倉 摩弥 坂田 五月
石井 敏弘 長谷川勝俊 安孫子誠也 鮫島 道和

聖隷クリストファー大学看護学部

Process of the Method Development: Evaluation of Clinical Practicum by Nursing Students of Seirei Christopher College

Megumi MIYATANI Mami YASUDA Maya YONEKURA Satsuki SAKATA
Toshihiro ISHII Katsutoshi HASEGAWA Seiya ABIKO Michikazu SAMEJIMA

Department of Nursing, Seirei Christopher College

抄 録

「学生による臨地実習評価」の実施に向けて、その評価方法を検討するため、検討グループを立ち上げ、全教員対象のアンケート調査とオープンディスカッションの実施、学生へのプレテストの施行、および臨地・臨床の実習指導担当者への報告等を行った。この約一年にわたる過程を通して、各教員の意見は十分に聞くことができ、臨地・臨床側の一定の理解も得られ、いくつかの課題は残るものの、一応の準備が整ったと言える。

キーワード：臨地実習、実習評価、授業評価、看護教育

I. はじめに

聖隷クリストファー大学看護学部では、1999年から「学生による授業評価」を開始し、学生の反応を確かめ、教授法を改善してゆく取り組みを行って来ている。しかしこれは講義形式の授業を中心とした評価であり、看護学部の教育課程の中で重要な、もう一つの要素である臨地実習の評価については、今後取り組むべき課題として残されていた。

2002年末に、看護学部長からの提案により、FD・授業評価委員会に「学生による臨地実習評価^{*}」への取り組みが依頼された。臨地実習は講義形式の授業とは異なり、教員だけでなく臨床側や患者・クライアントなどの、多くの要素が関わっている。そのためその評価は、今までの授業評価と同じ形式で行うことは適切ではないと思われ、新しい評価方法の導入が必要となると考えられた。そこでFD・授業評価委員会では委員会内に担当者を置き、この課題への取り組みを開始した。

どのような評価方法が、臨地実習の評価に適切であるかを検討するために、文献検索や本学部のすべての教員に対するアンケート調査、オープンディスカッションなどを実施して、2003

年12月現在までに、2003年版の臨地実習評価用紙を作成し、4年次生によるプレテストの実施、及び臨地・臨床側への報告まで行うことができたので、以下にその経過を報告する。

II. 取り組みの経過

1. 「学生による臨地実習評価」検討グループの立ち上げ

2002年末に看護学部長よりFD・授業評価委員会に「学生による臨地実習評価」への取り組みが依頼されたことにより、2003年1月に委員会の看護教員の宮谷、米倉委員を中心に、さらに本学部の臨床指導教員（専任）である坂田講師にも協力を依頼し、「学生による臨地実習評価」への取り組みを開始することを了解した。

2. 全教員対象の「学生による臨地実習評価」アンケート調査の実施

2003年4月に、本学部のすべての教員に対して、「学生による臨地実習評価」に関するアンケート調査を行った。内容は、学生による臨地実習評価の目的、評価の実施方法、評価を受ける対象、回収方法、評価用紙の設問、その他フリーアンサーで「学生による臨地実習評価」に

表1 「学生による臨地実習評価」に関する全教員対象のアンケート項目

質問①	学生による実習評価の目的について、委員会案への改善点や意見
質問②	学生による授業評価の実施方法について(選択肢と自由回答)
質問③	評価を受ける対象について(選択肢と自由回答)
質問④	回収方法について(選択肢と自由回答)
質問⑤	実習評価用紙の設問についての解答
質問⑥	学生による実習評価について思うこと(フリーアンサー)

^{*} 本学部における「学生による臨地実習評価」の方法の開発経過を通して、「臨地実習」を当初は「実習」と呼称して、学外看護学実習の意味であるとしてきた。しかし2004年度新カリキュラムより本学部では学外看護学実習(現在は実際には「臨地・臨床実習」と呼称している)を、「臨地実習」と呼称することが、2002年10月の教授会で決定していたので、これまで使ってきた「実習評価」という呼称を、本紀要の段階から「臨地実習評価」に変更した。

ついでに考えを尋ねるものであった(表1)。アンケートには全教員44名中27名から回答があった(回収率61.4%)。

「学生による臨地実習評価」の目的について、委員会原案では「実習評価により学生の目標達成度や満足度に関わる要素を抽出し、実習を改善してゆくこと」であったが、原案のままではよしとする意見が7名、意見なしと無回答が5名、言葉の表現については「要素」を「問題点」や「要因」に換えた方がよい、などの意見が7名から、目的そのものについては「教員の教育技術の向上に絞る」「臨床の評価との二本立てにする」、などの意見が5名からあった。

評価の実施方法は、「全看護学領域実習で10回行う」という意見が最も多く11名であり、次に多かったのは「特定の日に複数の実習を数回評価する」で8名であった。

評価を受ける対象は、延べ数による集計では「実習領域別」が最も多く19、次にそれ以外の選択肢「実習施設別」が10、「実習施設内小単位別」が10、「教員別」が9であった。

回収方法は、「学生が個々に、指定場所に提出」が18名で最も多かった。次に多かったのは「学生のリーダーが回収し、指定場所に提出」4名であった。

評価用紙の設問についての意見は、委員会がKJ法を用いて「その他」を含めて「教員の指導」「臨床側の指導」「実習施設側の体制」「実習目標の妥当性と達成度」などの13項目に分類した。その他フリーアンサーの「学生による臨地実習評価」について思うことにも、19名から「実習評価を行うことは有意義」「適切な評価方法の開発の必要性」「実習施設との連携の必要性」など多くの意見があげられていた。

3. 領域代表者会議での話し合い

臨地実習評価フォームの作成のために、4月に行った全教員対象の「学生による臨地実習評価」アンケート調査の結果、および他大学の臨地実習評価フォームの実例^{1) 2) 3) 4)}を持って、FD・授業評価委員の代表が2003年6月25日の本学部領域代表者会議に出席した。そこで各領域の代表者に「学生による臨地実習評価」の目的と、評価フォームの内容について意見を述べてもらった。

その結果、臨地実習評価の目的は「授業評価の一つである臨地実習評価により、実習の適切性を評価し、実習を改善してゆくこと」がよいとされた。その他に以下のような意見があげられた。

- ・日本赤十字広島看護大学のような、多様な角度からの質問項目があり、かつ質問数が少ない(日本赤十字広島看護大学は8問)ものがよい。
- ・日本赤十字広島看護大学は、質問に「実習場としてふさわしい」というような言葉使いをしているが、「ふさわしい」の意味がよくわからないので、具体的な例などを入れる。
- ・本学部の授業評価フォームには学生の意欲を問う質問があるので、同じような質問を入れた方がよい。
- ・自由記載欄は必要だが、どんなことを書けばいいのか例を入れる(よかったこと、困ったこと、など)。
- ・教員評価項目は日本赤十字広島看護大学よりも少しは必要。千葉大のものは細かすぎるし広島のものは大ざっぱすぎるので、千葉大学の質問項目を参考に、もう少し統合するなどして減らす。
- ・評価の対象は、教員個人別では実習場の条件の違いや評価した学生のプライバシーの問題

などから難しい。逆に実習全部を一度に対象にすると、何が悪かったのかわからず改善につなげることができない。領域別という単位が当面はいいと思われる。

- ・評価の時期は、一つの実習終了ごとが最もいいと思うが、領域実習では少人数単位なので学生のプライバシーが保てない。時期や集計方法は、出来上がった評価フォームの内容を見て検討したり、プレテストで学生の意見を聞くなどとして、まだ考える必要がある。
- ・臨床側の評価は、最初は独立した質問項目は作らず、自由記載欄に（臨床側への意見など）と例示して、書きたい学生は書けるような形にしておく。

4. 「学生による臨地実習評価」検討グループでの話し合い (1)

2002年度からの3名の検討グループメンバーに加えて、2003年度よりFD・授業評価委員となった看護教員の安田委員を加えた4名で、7月中旬に領域代表者会議からの意見をもとに、臨地実習評価のための仮の目的を「授業評価の一つである臨地実習評価により、実習の適切性を評価し、実習を改善してゆくこと」と定め、現在の授業評価フォームを元にして、仮の臨地実習評価フォームを作成した(表2)。

5. 第3回教員学内研修会におけるオープンディスカッション

4月に行った全教員対象の「学生による臨地実習評価」アンケート調査の結果、他大学と本学他学部の臨地実習評価フォームの実例^{1) 2) 3) 4)}、領域担当者会議からの意見、および「学生による臨地実習評価」検討グループで話し合った臨地実習評価のための仮の目的と評価フォームを提示して、本学部のすべての教員で、本学

部の臨地実習評価の目的と評価フォームについて、オープンディスカッションを行った(2003年7月30日)。

ディスカッションの結果、臨地実習評価の目的に関して、「適切性」という言葉の定義が曖昧であるとして議論され、「達成度」「到達度」「妥当性」等の言葉に変える案や、授業評価の目的に倣った言葉にする案が出された。しかし最終決定はなされず、検討グループに返された。評価フォームの内容については、仮の評価フォームの質問項目の変更の案がいくつか出されたが、全看護学領域実習の共通フォームとしては取り入れ難い意見が多かった。結局、どの領域のいつの時期の実習でも使えることが望ましいとされ、質問内容と質問項目数としては仮フォームのものがほぼ妥当であるとされた。他に「現在の授業評価のフォームをもっと参考にしたほうが良い」「今すぐに無理なのはわかるが、今後は評価項目に臨床側を入れていくことは避けられないであろう」などの意見が出された。また自由記載欄については、「具体的な実名を書いてもらったり、学生がどうして欲しいのか改善案も添えて書いてもらうようにしたい」という意見があった。臨地実習評価フォームについても最終決定はなされず、検討グループに返された。

6. 「学生による臨地実習評価」検討グループでの話し合い (2)

7月30日のオープンディスカッションの話し合い結果をもとに、同日「学生による臨地実習評価」検討グループで本学部の臨地実習評価の目的と評価フォームを再検討した。その結果、本学部の臨地実習評価の目的を、最終的に「授業評価の一つである臨地実習評価により、学生の反応を確かめ、実習指導・内容の適切性を評価

表2 仮の臨地実習評価フォーム

実習評価アンケート(2003年) (案)

このアンケートは、看護学実習に関して学生の皆さんに評価してもらうことにより、実習の適切性を評価し、実習を改善してゆくための大切な資料となるものです。集計は個人が特定されないように行い、成績評価に影響することはありませんので、率直にお答えください。

下記の1.~3.の項目については、a・b・c・dの該当する記号に○印をつけ、4.は枠内に書いてください。

看護学実習科目名： _____ (実習場所 _____)

a 非常にそう思う b ややそう思う c あまりそう思わない d 全くそう思わない

1. 教員について

- | | | | | |
|------------------------------|---|---|---|---|
| ①教員のオリエンテーションの内容はわかりやすかった | a | b | c | d |
| ②教員のカンファレンスは学びを深めるのに役立った | a | b | c | d |
| ③この実習に対する教員の意欲・積極性が感じられた | a | b | c | d |
| ④教員から適切な指導・アドバイスを受けられた | a | b | c | d |
| ⑤教員から得るところ、学ぶところがあり自分のためになった | a | b | c | d |

2. 実習記録・施設について

- | | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|
| ①実習記録の内容は学習上役に立った | a | b | c | d |
| ②実習記録の量は適切だった | a | b | c | d |
| ③実習施設は実習目標を達成するのに適切だった | a | b | c | d |

3. あなた自身について

- | | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| ①実習には興味・関心をもって積極的に取り組んだ | a | b | c | d |
| ②この実習(全体)は得るところ、学ぶところがあり自分のためになった | a | b | c | d |

4. この実習で良かったこと、困ったこと、あるいは臨地・臨床側への意見などを自由に書いてください。

し、実習を改善してゆくこと」と決定した。評価フォームについてはオープンディスカッションで出された意見を元に、「臨地実習評価フォーム(2003年)」を決定した(表3、標準調査様式4)。

7. 4年次生へのプレテスト

2003年10月24日に、4年次生を対象に、標準調査様式4を用いて、一番最後に行った臨地実習について、プレテストを施行した。同時に臨地実習評価の方法がこれでいいのかどうか、学生の意見を聞くために「プレテスト用追加アンケート」(表4)を行った。その内容は臨地実習評価アンケートの設問の適切さ、実施回数や時期、回収方法、臨地実習評価アンケート実施にあたっての意見をフリーアンサーで聞くもの、および今までに行ってきた全看護学領域実習についての意見を尋ねるものであった。

Ⅲ. プレテストの結果

プレテストは看護師国家試験模擬試験の日を利用して行った。模擬試験を受験しない者、当日試験を欠席した者などを除いて4年次生125名中109名が参加し、そのうち101名から標準調査様式4と「プレテスト用追加アンケート」に回答が得られた(回収率92.7%)。

まず標準調査様式4の回収数について、実習領域別では成人看護実習Ⅰで18、成人看護実習Ⅱで13、老人看護実習で9、母性看護実習で7、小児看護実習で18、精神看護実習で9、地域看護実習で20、在宅看護実習で7の回収があった。

回答の内容でリカートスケールで回答された部分については、表5に示すような集計を行った。自由記載部分については、記載のあったものが53、なかったものが48であった。記載内容

についてはその看護学領域に直接返してゆく方が良いと考え、今回は集計を行わなかった。

「プレテスト用追加アンケート」では、質問Ⅰ(表4参照)で、わかりにくい、または答えにくい設問番号について聞いたところ、無記入が82であり、記入があったものの意見は「いいと思う、特になし」が合わせて9であり、他には質問項目等について具体的な意見が述べられていたが、全てあわせてもその内容の延べ数は14であり、まとまった意見ではなかった。

質問Ⅱでは、評価の時期と回数について、最も多かった回答が「全看護学領域実習の終了ごとに毎回(全10回)評価」で73.3%であり、その他の選択肢への回答は、それぞれすべて10%未満であった。その他に書かれていた意見は延べ数で13であり、評価の時期や回数によっては、記入者が特定される可能性があることへの不安についての意見が4で、最も多かった。

質問Ⅲでは、回収方法について、最も多かった回答は「学生が個々に、指定場所に提出」で43.6%、次が「学生のグループリーダーが回収し、指定場所に提出」で23.8%、その次が「教員がその場で回収」で20.8%であった。他の選択肢への回答は、それぞれすべて10%未満であった。その他に書かれていた意見は、延べ数で12であり、「記入者が特定されないようにして欲しい」などのプライバシーに関する意見と、「実習記録と一緒に提出」という意見がそれぞれ3みられた。また教員がいては評価しにくい、という意見も2みられた。

質問Ⅳでは、「学生による臨地実習評価アンケート」の実施についての意見が26名からあり、「実習評価は絶対に必要だと思う」「実施して有効に活用して欲しい」などの、実施に賛成する意見が延べ数で11であった。「記入者が特定される不安」が4、「特になし」が3であり、その

表3 標準調査様式4

【標準調査様式4】

学生による臨地実習評価アンケート(2003年)

このアンケートは、臨地実習に関する学生の皆さんの反応を確かめ、実習指導・内容の適切性を評価し、実習をより充実したものにするための大切な資料となるものです。集計は、個人が特定されないように行い、成績評価に影響することはありませんので、率直にお答えください。

下記の1.~3.の項目については、a・b・c・dの該当する記号に○印をつけ、4.は枠内に書いてください。

看護学実習科目名：_____ (実習場所 _____)

a 非常にそう思う b ややそう思う c あまりそう思わない d 全くそう思わない

1. 教員について

- | | | | | |
|------------------------------|---|---|---|---|
| ①この実習に対する教員の意欲・積極性が感じられた | a | b | c | d |
| ③教員のオリエンテーションへのかかわり方はよかった | a | b | c | d |
| ④教員のカンファレンスへのかかわり方はよかった | a | b | c | d |
| ⑤教員から受けた指導・アドバイスは役に立った | a | b | c | d |
| ⑥教員から得るところ、学ぶところがあり自分のためになった | a | b | c | d |

2. 実習の内容と進め方について

- | | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|
| ①実習内容のレベルは適切であった | a | b | c | d |
| ②実習の進め方は適切であった | a | b | c | d |
| ③実習記録の内容は学習上役に立った | a | b | c | d |
| ④実習記録の量は適切だった | a | b | c | d |
| ⑤実習施設は実習目標を達成するのに適切だった | a | b | c | d |

3. あなた自身について

- | | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| ①実習には興味・関心をもって積極的に取り組んだ | a | b | c | d |
| ②この実習(全体)は得るところ、学ぶところがあり自分のためになった | a | b | c | d |

4. この実習で良かったこと、困ったこと、あるいは臨地・臨床側への意見などを自由に書いてください。

(良かったこと、困ったことで具体的に実名をあげてもかまいません。問題点などについては、できたらこうしてほしいという改善策も添えて書いてください)

記入年月日 年 月 日

表4 プレテスト用追加アンケート

学生による実習評価アンケート(2003年) —プレテスト用追加アンケート—

- I この「学生による実習評価アンケート(2003年)」の、設問はこれでいいですか。質問の意味がわかりにくい、または答えにくいものがあれば、その設問番号をお書きください(こう変えたらいいという案があれば、それをぜひ書いてください。設問数の多い、少ないもご意見があれば書いてください)。
- II 「学生による実習評価アンケート」は、いつ、何回行うのが適当であると思いますか。
下からよいと思うものの、番号に○をつけてください。
1. 全領域(基礎Ⅰ、基礎Ⅱ、成人Ⅰ、成人Ⅱ、老人、母性、小児、精神、地域、在宅)の終了ごとに毎回(全10回)評価
 2. 特定の日(帰校日など)に直前の実習一つについてのみ1回だけ評価
 3. 特定の日(帰校日など)に直前の実習一つを数回(3,4回つまり3,4領域のみ)評価
 4. 特定の日(帰校日など)にその前に行った複数の実習を1回だけ評価
 5. 特定の日(帰校日など)にその前に行った複数の実習を数回評価
 6. 全実習終了後に全領域を思い出して、1回で全領域分を評価
 7. その他(ご意見があれば具体的にお書きください)
- III 「学生による実習評価アンケート」の回収方法はどのようにしたらよいと思いますか。
下からよいと思うものの、番号に○をつけてください。
1. 教員がその場で回収
 2. 学生のグループリーダーが回収し、指定場所(事務に置かれた回収箱など)に提出
 3. 学生が個々に指定場所(事務に置かれた回収箱など)に提出
 4. 全実習終了後、一回のみ施行するのであれば、実施した教室に置いた回収箱に提出
 5. その他(ご意見があれば具体的にお書きください)
- IV 「学生による実習評価アンケート」の実施にあたって、ご意見があれば何でもお書きください。
- V 皆さんが今まで行ってきた看護学実習について、良かった、または良くなかった実習、良かったこと、困ったことなどご意見があれば何でもお書きください(なるべく具体的に、できたらこうしてほしいという改善策も添えて書いてください)。

表5 プレテスト結果(標準調査様式4 リカートスケール部分)

領域	項目	教員について						実習の内容と進め方について						あなた自身について		平均			
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)					
○○看護学	合計(a)	17	18	13	11	18	17	13	10	15	10	13	12	18	全体の平均				
	合計(b)	1	0	5	6	0	1	5	8	3	8	5	6	0					
	合計(c)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	合計(d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	平均(a)	94.44	100.00	72.22	61.11	100.00	94.44	72.22	55.56	83.33	55.56	72.22	66.67	100.00					
	平均(b)	5.56	0.00	27.78	33.33	0.00	5.56	27.78	44.44	16.67	44.44	27.78	33.33	0.00					
	平均(c)	0.00	0.00	0.00	5.56	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	平均(d)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	合計平均(a)	1.教員について						87.04	2.実習の内容と進め方について							67.78	3.あなた自身	83.33	78.1
	合計平均(b)							12.04								32.22		16.67	20.5
合計平均(c)							0.93							0.00		0.00	0.4		
合計平均(d)							0.00							0.00		0.00	0.0		
○○看護学	合計(a)	8	6	8	7	8	7	5	5	5	5	6	6	7	全体の平均				
	合計(b)	3	3	1	2	1	2	4	3	4	4	4	2	3					
	合計(c)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0					
	合計(d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	平均(a)	66.67	66.67	88.89	77.78	88.89	77.78	55.56	55.56	55.56	55.56	66.67	66.67	77.78					
	平均(b)	33.33	33.33	11.11	22.22	11.11	22.22	44.44	33.33	44.44	44.44	22.22	33.33	22.22					
	平均(c)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	11.11	0.00	0.00	11.11	0.00	0.00					
	平均(d)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	合計平均(a)	1.教員について						77.78	2.実習の内容と進め方について							57.78	3.あなた自身	72.22	69.2
	合計平均(b)							22.22								37.78		27.78	29.1
合計平均(c)							0.00							4.44		0.00	1.7		
合計平均(d)							0.00							0.00		0.00	0.0		
○○看護学	合計(a)	5	7	2	2	6	7	4	1	4	3	6	4	6	全体の平均				
	合計(b)	2	0	3	3	1	0	2	3	1	3	0	3	1					
	合計(c)	0	0	1	2	0	0	1	3	2	1	1	0	0					
	合計(d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	平均(a)	71.43	100.00	28.57	28.57	85.71	100.00	57.14	14.29	57.14	50.00	71.43	71.43	85.71					
	平均(b)	28.57	0.00	42.86	42.86	14.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	平均(c)	0.00	0.00	14.29	28.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	合計平均(a)	1.教員について						77.78	2.実習の内容と進め方について							57.78	3.あなた自身	72.22	69.2
	合計平均(b)							22.22								37.78		27.78	29.1
	合計平均(c)							0.00								4.44		0.00	1.7
合計平均(d)							0.00							0.00		0.00	0.0		
○○看護学	合計(a)	2	4	2	2	0	1	2	3	2	4	2	4	2	全体の平均				
	合計(b)	4	3	5	6	6	5	6	4	5	5	4	4	5					
	合計(c)	3	2	2	1	3	2	1	2	2	0	2	1	2					
	合計(d)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0					
	平均(a)	22.22	44.44	22.22	22.22	0.00	11.11	22.22	33.33	22.22	44.44	22.22	44.44	22.22					
	平均(b)	44.44	33.33	55.56	66.67	66.67	55.56	66.67	44.44	55.56	55.56	55.56	44.44	55.56					
	平均(c)	33.33	22.22	22.22	11.11	33.33	22.22	11.11	22.22	22.22	0.00	22.22	11.11	22.22					
	平均(d)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	11.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	合計平均(a)	1.教員について						20.37	2.実習の内容と進め方について							54.44	3.あなた自身	33.33	25.6
	合計平均(b)							53.70								40.00		50.00	53.8
合計平均(c)							24.07							15.56		16.67	19.7		
合計平均(d)							1.85							0.00		0.00	0.6		
○○看護学	合計(a)	2	2	1	3	2	1	2	3	0	3	4	7	5	全体の平均				
	合計(b)	5	4	4	2	2	5	5	4	5	4	1	0	2					
	合計(c)	0	1	2	2	2	1	0	0	2	0	2	0	0					
	合計(d)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0					
	平均(a)	28.57	28.57	14.29	42.86	28.57	14.29	28.57	42.86	0.00	42.86	57.14	100.00	71.43					
	平均(b)	71.43	57.14	57.14	28.57	28.57	71.43	71.43	57.14	71.43	57.14	14.29	0.00	28.57					
	平均(c)	0.00	14.29	28.57	28.57	28.57	14.29	0.00	0.00	28.57	0.00	28.57	0.00	0.00					
	平均(d)	0.00	0.00	0.00	0.00	14.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	合計平均(a)	1.教員について						28.19	2.実習の内容と進め方について							34.29	3.あなた自身	85.71	38.5
	合計平均(b)							52.38								54.29		14.29	47.3
合計平均(c)							19.05							11.43		0.00	13.2		
合計平均(d)							2.38							0.00		0.00	1.1		
全領域	合計(a)	68	80	62	61	71	99	58	49	55	47	62	68	86	全体の平均				
	合計(b)	25	17	32	31	22	23	38	40	36	51	29	32	13					
	合計(c)	7	4	6	9	7	8	5	12	10	3	10	1	2					
	合計(d)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0					
	平均(a)	67.33	79.21	61.39	60.40	70.30	68.32	57.43	48.51	54.46	46.53	61.39	67.33	85.15					
	平均(b)	24.75	16.83	31.68	30.69	21.78	22.77	37.62	39.60	35.64	50.50	28.71	31.68	12.87					
	平均(c)	6.93	3.96	5.94	8.91	6.93	7.92	4.95	11.88	9.90	2.97	9.90	0.99	1.98					
	平均(d)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.99	0.99	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	合計平均(a)	1.教員について						67.82	2.実習の内容と進め方について							53.66	3.あなた自身	78.24	63.7
	合計平均(b)							24.75								38.42		22.28	29.6
合計平均(c)							6.77							7.82		1.49	6.4		
合計平均(d)							0.33							0.00		0.00	0.2		

他に10の意見があったが、まとまったものではなかった。

質問Vは、今までに行ってきた全看護学領域実習についての意見を尋ねるものであり、51名から回答があった。「〇〇領域の実習がよかった」「困っていたときに、すぐに対応してもらえた」「教員の看護観が学べてよかった」など、実習のよかった点があげられていたものは、延べ数で16であった。よくなかった点があげられていたものは54であり、その内容は大きく3つに分かれていた。まず一つ目は「実習方法」についての意見が26あり、実習の時期やインターバルの時期のあり方について、実習場所による金銭的負担の差、実習グループの組み方等について、よくなかったとして苦情と意見があげられていた。二つ目は「教員」についての意見が22あり、「教員と合わずストレスだった」「指導に納得できなかった」「教員によって指導に差がある」などの意見がほとんどだった。三つ目は「臨床側」についてであり、スタッフに冷たい対応をされたなどの意見が6あった。これ以外の意見が8あったが、その中に「実習の直接担当以外の、他の教員にも意見を言えたり、アドバイスをもらえるといい」という内容の意見が、3みられた。「特になし」は、2であった。

IV. 実習指導担当者への報告

「学生による臨地実習評価」の主たる目的は、教育（臨地実習）の質的向上という事であるが、臨地実習は臨地・臨床の実習指導担当者の協力の上に成り立っている。学生からの評価の中には、これらの実習指導担当者に関連する内容が、自ずと含まれて来る事が予想される。そうした事から、「学生による臨地実習評価」のプレテストの終わった段階で、この「学生によ

る臨地実習評価」の内容を臨地・臨床の実習指導担当者に見て頂き、了解と協力を得る方法を取った。2003年11月21日に開かれた「2003年度11月実習指導担当者会議」に、標準調査様式4（表3）と集計結果（表5）の下部にある全看護学領域の集計表を出して、参加者の了解と意見を求めた。臨床側（聖隷浜松病院、聖隷三方原病院）からの意見として

- ・病棟側の受け入れの対応について、よかったかどうかの評価を行う項目を2.に含めて欲しい。
- ・自由記載欄、集計結果（病棟評価）を知らせて欲しい。

という2点について意見があった。

この臨床側からの意見について、「学生による臨地実習評価」検討グループで検討した結果、「病棟側の受け入れの評価を行う項目は加えない、自由記載欄の記載内容については、各看護学領域へ報告の後、各領域の判断で、臨床へ伝えることとしたい」との結論に至った。この「学生による臨地実習評価」検討グループの意見を、実習委員会を介して、臨床側に説明し、意見交換の後、大学、臨床側双方が了承のうえ、「学生による臨地実習評価」を実施することとなった。

V. まとめ

本学部における「学生による臨地実習評価」方法の開発について、その経過を述べた。これらの経過を踏まえて、今後本学部が標準調査様式4（表3）を用いて、学生による臨地実習の評価を行うことについて、教員間の合意が得られ、また学生側の反応も確認でき、一応の準備が整ったと言える。

一方で、その実施に当たっては、まだ問題点

や課題が残されていることも明らかになった。まず、学生が「記入者が特定されることへの不安」を述べている。臨地実習は少人数の単位で行われるため、記入者を特定できる場合があり、苦情や意見を書くと、そのことが成績評価に影響するのではないかと懸念している。この問題を解決しないと、せっかく実習評価を行っても、学生が自由に意見を述べられず、「実習を改善してゆく」という目的を達成できないと考えられる。学生が成績評価を気にせず、臨地実習評価ができる工夫が必要と思われる。

また現在は、臨地実習評価は授業評価の一環であるとして、FD・授業評価委員会が臨地実習評価を取り扱っているが、今後もこのままで良いのかは重要な課題である。誰が評価用紙を配布し、回収・集計・まとめを行うのが適切なのか。いつ、何回評価を行って、どのような方法で回収するのか。そしてその結果をどこに返し、どのように公開するのか等の問題点が残っている。これらについて早急に方針を決め、実施のガイドラインを作成する必要がある。

こうした問題点を含め、「学生による臨地実習評価」が、「学生の反応を確かめ、実習指導・内容の適切性を評価し、実習を改善してゆくこと」という目的を達成できるシステムとなるよう、完成させていきたいと考える。

VI. 謝辞

「学生による臨地実習評価」方法の開発経過の中で、本学看護学部の教員には、アンケートやオープンディスカッション、領域代表者会議などで、様々な協力をいただきました。また、看護学部の学生、特に本年度の4年次生には多くの協力を得て、この報告書がまとまりました。あわせて感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 静岡県立大学 (2001)：臨地実習に関するアンケートのお願い。
- 2) 定廣和香子, 亀岡智美, 横山京子, 松田安弘, 廣田登志子 (2000)：授業過程評価スケール—看護学実習用—。舟島なをみ, 杉森みど里編, 看護学教育評価論, pp.46, 文光堂, 東京。
- 3) 石川ふみよ, 森 千鶴, 千葉恭子, 奥宮暁子, 岡部聡子, 大西和子, 大淵律子, 小林伸子 (1991)：臨床実習における教員評価表の妥当性と指導体制の一考察—学生の教員および看護婦に対する評価—。東京都立医療技術短期大学紀要, 第4号, pp. 79。
- 4) 日本赤十字広島看護大学自己点検・評価委員会 (2002)：2001年度日本赤十字広島看護大学の現状と課題～教員・学生へのアンケート結果から～, pp.55-56, 日本赤十字広島看護大学, 広島。
- 5) 聖隷クリストファー大学社会福祉学部(2003)：授業アンケート票—実習科目用—。
- 6) 岩永秀子, 雄西智恵美, 石井美里, 児玉千代子, 佐藤節子, 野田節子, 佐々木哲二, 式守晴子, 岡部明子, 山口佳子 (2003)：東海大学健康科学部看護学科におけるカリキュラム評価システムの構築—学生による臨地実習評価のシステム化と今後の課題—。東海大学健康科学部紀要, 8, 37-44。